

まえがき

# 仕事を頼まれて「すぐですか？」 と聞く人は、成功しない。

人から仕事を頼まれた時、あなたはどの対応していますか。

上司から「企画書を100部コピーとっておいて」と頼まれたら、「はい、わかりました」と言っ、すぐにとりかかるのが普通です。

ところが、実際のオフィスでは、部下に仕事を頼むと、「すぐですか？」「課長、それ急いでますか？」という返事が返ってきます。

これは、急ぎかどうかを確認するための質問ではありません。

「私でなければダメですか？」「なぜ私がやるんですか？」「いつまでにやればいいんですか？」と言っ人もいます。

要は、仕事をやりたくないのです。

やりたくないから、そういう返事をするのです。

「コピーは、どうやってとるんですか?」「どこへとりに行けばいいんですか?」と聞く新入社員もいます。

頼まれた仕事に対して、自分が今それをやらなければいけない理由を考えているのです。

100人のうち99人が、「すぐですか?」と聞き返します。

そこで「今すぐだよ」と言われれば、「ハイ、わかりました」と言います。

でも、「今やらなくてはダメですか?」「もちろん今だよ」「ハイ、わかりました」というやりとりだけで、仕事のスピードは落ちてしまいます。

上司も、そういう部下には仕事を頼まなくなりません。

「すぐですか?」と聞くのは、ヘンな話です。

早く仕事をするに越したことはありません。

「何時まででいいよ」と言われたとしても、すぐにやらなければいけません。

それが、スピードに対する意識の差です。

頭の中で、今「これをしよう」と体に命令して、体が「今ですか?」と聞き返すと頭と体が分離して動かなくなってしまう。

あなた自身の意識の中で、「できればやりたくない」「ほかのヤツがやればいいじゃ

ないか」とやりとりしています。

これは、アクセルとブレーキの両方を踏んでいる状態で、やがて行き詰まります。仕事を頼まれた時に「すぐですか？」と聞く人は、仕事を頼まれなくなるので、まず成功しません。

逆に、スピードに対する意識を持てば、仕事はどんどん進むのです。

人間の意識は、「そっかー」と気づいた瞬間から変えられます。

意識改革を起こして仕事を快適に進めるために一番大事なことは、スピードです。

改革は、短期間に行われます。

100年かかって改革が行われることはありません。

100分の1のスピードで変化するのが、改革です。

今は、改革を起こさなければいけない時代です。

改革のためには、スピードが必要です。

会社の組織やシステムの改革には、設備投資が必要になります。

機械をつくったり、ビルを建て直したり、中のつくりを変えようと思うと、改革の

スピードは落ちてしまいます。

スピードの遅い人は、本人は遅いという意識はなく、「これが当たり前だ」と思って

います。

まず、その意識を変えることです。

スピード  
意識改革

その

「仕事を頼まれたら、  
すぐですか？」と聞く前に、やろっ。